指定管理者による管理運営の実施状況報告

１　施　　設　　名：　甘木歴史資料館

２　指 定 管 理 者 名：　朝倉市

３　指　定　期　間：　令和6年4月1日～令和11年3月31日

４　施 設 設 置 目 的：　甘木朝倉地方の考古・民俗・歴史資料の収集、保存及び展示

５　管理運営についての点検結果（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（１）点　検　方　法：　事業報告書、現地確認、ヒアリング等をもとに指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。

（２）点　検　結　果：　別添のとおり

①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
①公共性（公益性）の確保	・地域の特徴ある歴史民俗資料や各種文化財の調査研究、資料の収集や保存に努め、調査研究成果を積極的に展示及び公開する。 ・講座等の展開を通じ、文化財保護の普及に努め、施設の市民開放についても積極的に進める。	・市民から提供された資料を展示に生かすとともに、市民自主展示を積極的に受け入れた。 ・甘木歴史資料館だより「温故」を発行し調査研究成果を公開した。
②施設利用及びサービス向上	・企画展に伴う形でギャラリートーク（展示解説）、公開講座を行うとともに、年次計画を基に講座を企画する。 ・朝倉市内及び近辺市町所在の小学校を対象に体験学習を実施する。	・企画展「写真展「野田演吉が撮った沖端」」を九州歴史資料館三分館合同企画展の第２回目として開催した。 ・当地域では非常に著名な佐野至氏の業績を過去最大規模で紹介する企画展「佐野至を知ることは朝倉を知ること ー版画家佐野至の歴史・民族・地域学的おしごとー」を開催した。 ・特集展「あさくらで化石？？展」に合わせ、実際に化石にふれてもらうことを目的として夏休み子ども教室を実施した。 ・甘歴ボランティア隊により石造文化財報告書作成のための整理作業や教育普及活動の支援を実施した。 ・入館者数　11,294人（対前年度比187.9% R6年度6,012人）（対R1年度比164.8% R1年度6,853人） ・高齢者・障がいのある人に対して、必要に応じて職員によるドアやエレベーターの開閉等対応している。
③経営（収支）改善	・報酬等、人件費の抑制に努める。 ・旅費や使用料等の支出軽減に努める。	・委託料実績　12,443千円（対前年度比102.5% R6年度12,138千円）（対R1年度比118.6% R1年度10,486千円） ・学芸員が事務員を兼ねるなど、人件費抑制に努めている。 ・日常から職員が環境整備に積極的に取り組むなど、コスト削減に努めている。
④職員確保方策及び健全な財政基盤	・館長、副館長、事務学芸員を配置し、必要に応じて市職員との連携を図る。 ・常設展、企画展の企画及び管理にあたっては朝倉市との連携を図る。	・朝倉市文化・生涯学習課兼務常勤館長1名、県派遣学芸職員1名（副館長）、常勤嘱託学芸員（3名）を配置。 ・朝倉市文化・生涯学習課職員2名を資料館担当とし、展示や運営に協力するなどの連携を図った。
⑤施設管理上の個別事項	・収集した資料は燻蒸処置を行い、収蔵庫において湿度等に配慮しながら資料の管理保全に努める。 ・収蔵した資料は管理台帳に登録し、保存状態の把握に努め、その状態及び性質に応じた管理を適切に行う。	・収蔵した資料については事業計画に沿って適切に保存している。また、資料管理台帳の整備を引き続き進め、その状態及び性質に応じたより適切な管理に努めている。 ・安全対策・危機管理に関しては、各種設備の法定点検及び定期的な消防訓練の実施により、適切に対応している。

②点検結果

□ A＋　（提案内容を上回った） ○ A　（提案内容をやや上回った） □ B　（概ね提案内容どおり） □ C　（提案内容をやや下回った） □ D　（提案内容を下回った）	【総合コメント】 常設展や企画展のほか、関連する学習講座等の活動を継続するとともに、市民の自主展示のために施設を開放することで地域住民が歴史・民俗資料に触れる場を提供している。 展示だけでなく、体験学習やイベントの実施など年間を通して集客するための魅力ある館の運営に努めている。 年間を通して展示・イベントの実施した結果、入館者数は前年に比べて高い数値であった。 今後も継続的な集客を見込めるよう趣向を凝らした展示・イベントの実施を検討していく必要がある。